



信仰によって学ぶ

十二使徒定員会 デビッド・A・ベドナー

教会教育システム宗教教育者への説教・2006年2月3日・ジョーダン・インスティテュート

皆さんを愛しています。また、世界中で教会の若人にすばらしい影響を与えてくださっている皆さんに、幹部の兄弟たちからの感謝の言葉をお伝えします。若人を祝福し、強めてくださり、ありがとうございます。

この特別な機会に、わたしたちが聖霊により祝福され、教化されますように。

対となる原則——御霊によって教え、信仰によって学ぶ

聖文は、福音の真理を教えるには御霊によらなければならないと、繰り返し教えています(教義と聖約50:14参照)。わたしたちの大半は、親として、また教師として、この原則を理解し、応用しようとしています。しかし、霊的な祝福を得るために必要な、大切な原則がもう一つあることを忘れてはなりません。それは、信仰によって学問を求めるという原則です。(教義と聖約88:118参照)。御霊によって教え、信仰によって学ぶことは、対となる原則であり、わたしたちはこの二つを常に応用しなければなりません。

とかくわたしたちは、信仰によって学ぶよう生徒を助けることよりも、御霊によって教える教師の責任の方に心が向きます。教えることも、学ぶことも、霊的な祝福を得るために欠かせません。しかし、今後世界がますます混乱していくことを考えると、あらゆる人にとって、信仰によって学ぶ力を伸ばしておくことが欠かせなくなってくるでしょう。信仰によって、霊的な知識を増し加え、実生活に応用しようと努力していくなら、個人、家族、教会として、霊的な強さや導き、守りが得られるようになるのです。

ニーファイはこう教えています。「人が聖霊の力によって語るときには、聖霊の力が教えを人の子らの心に伝える。」(2ニーファイ33:1) 御霊の力は確かに教えを心に伝えます。しかし、それが常に心に入るとは限りません。いくら教師が御霊の力によって、効果的に説明し、論証し、説得し、証したとしても、生徒の側で、心に取り込もうと努力しなければ、教えの内容も、聖霊に

よる証も、彼らの心には入りません。

信仰によって学ぼうとして初めて、心の扉が開くのです。今晚わたしは、信仰によって学ぶという個人の責任についてお話しします。(教義と聖約88:118参照)さらに、この原則が持つ教師への意義についてもお話しします。

人を駆り立てる力——主イエス・キリストを信じる信仰

パウロは、信仰とは望んでいることを確信し、見ていない事実を確認することであると述べました(ヘブル11:1参照)。アルマは、信仰とは物事を完全に知るのではなく、まだ見ていない真実を待ち望むことであると述べています(アルマ32:21参照)。『信仰に関する講話』(*The Lectures On Faith*)には、信仰とは「啓示された宗教の第一の原則であり、あらゆる義の基であって、英知ある者を行動へ駆り立てる力である」とあります。(ジョセフ・スミス, *The Lectures On Faith* [1985年], 1)

パウロ、アルマ、『信仰に関する講話』の教えをまとめると、信仰には次の3つの側面があるということです。(1)望む事柄が真実であることを「確信」すること、(2)見えない事実への「証拠」を得ること、(3)英知ある者を「行動」に駆り立てる力。では、救い主への信仰の3つの側面を、未来に備え、過去を振り返り、今行動することと関連づけて説明しましょう。

望む事柄が真実であると確信する信仰は、未来に目を向けさせます。神を正しく理解し、神を信頼する人は、確信を得、不確かでチャレンジに満ちた生活の中で、救い主に仕えながら「力強く進む」ことができます。(2ニーファイ31:20参照)ニーファイは真鍮版を取りにエルサレムに戻ったときに、これから現実になることに対して確信を持ち、「前もって自分のなすべきことを知らないにもかかわらず」前進して行きました。(1ニーファイ4:6-7参照)

キリストを信じる信仰を持つなら、贖われ、昇栄できるとの望

みを抱けるようになります。確信と希望があれば、未知の領域まで歩いて行き、そこから足を踏み出すことができます。光が自分の方に移動してきて道を照らしてくれることを望み、信じるのです(ボイド・K・パッカー “The Candle of the Lord,” *Ensign*, 1983年, 1月号, 54)。そのような確信と希望が、行動を促してくれます。

見えない事実への証拠となる信仰は、過去に目を向けさせ、神への固い信頼と、見ることのできない事実への確信を与えてくれます。確信と希望を持って闇に入ると、光が実際に自分の方に移動して来て照らしてくれます。わたしたちはそのようにして証拠と確認を得てきました。信仰が試された後に証を得ると、それは目に見えない事実に対する証拠となり、確信が強められるのです。(エテル12:6参照)

この確信と行動と証拠は、互いに影響を及ぼし合います。この3つはコイルのように、渦を巻きながら上昇していきます。確信と行動と証拠という信仰の3つの側面は、それぞれ分離しているのではなく、相互作用しながら絶えず上昇するのです。この相互作用を通じて、信仰は発展し、進化し、変化していきます。未知の出来事に再び立ち向かうとき、確信は行動を促し、行動が新たな証拠を生み出し、その証拠によって確信がさらに増します。このようなプロセスで、ここにも少し、そこにも少しと、自信が増していくのです。

イスラエルの子らが、ヨシュアに導かれて契約の箱を運んでいたときに、確信と行動と証拠が相互に作用する経験をしました(ヨシュア3:7-17参照)。ヨルダン川にやって来たイスラエルの民は、川の水が分けられ「うず高くなって」(ヨシュア3:13)、乾いた地を歩いて渡ることができるという約束を受けました。興味深いことに、イスラエルの子らが川岸に立って待っている間は、川の水は分けられませんでした。足の裏が水に触れて初めて、水が分けられたのです。つまり民の信仰は、水が分けられる「前に」水に入って行くことによって示されたのです。彼らはこれから起こることを確信してヨルダン川に入りました。民が前に進むと、水が分けられました。乾いた地を渡りきった民は、振り返り、目に見えない事柄に対する証拠を見ました。こうして、まだ見ぬ事実を確信する信仰により行動し、見えない事実に対する証拠を得たのです。

真の信仰は、主イエス・キリストを土台とし、常に行動を促します。行動に駆り立てる信仰については、聖文の中で何度も教えられています。

霊魂のないからだが生んだものであると同様に、**行いのない信仰も死んだもの**なのである。(ヤコブの手紙2:26, 強調付加)

そして、**御言を行う人**になりなさい。……ただ聞くだけの者となってはいけない。(ヤコブの手紙1:22, 強調付加)

しかし見よ、もしあなたが目を覚まし、能力を尽くして**わたしの言葉を試し**、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、……。 (アルマ32:27, 強調付加)

行動を促す信仰は、霊的な真理を学び、生活に応用するうえで最も大切な要素です。

信仰によって学ぶ——「される」ではなく、「する」

行動に駆り立てる信仰は、福音を学ぶこととどのような関係があるでしょうか。信仰によって学ぶとは何を意味しますか。

神が創造されたものはすべて、作用するものと作用されるものに分けられます(2ニーファイ2:13-14参照)。天の御父の息子、娘として、わたしたちには、選択の自由という賜物、つまり自由に行動する力が与えられています。選択の自由を与えられているわたしたちは、特に、霊的な知識を得て、応用するために、受動的ではなく、主体的になる必要があります。

信仰と経験の二つを通して学ぶことは、御父の幸福の計画の中で核となる特徴です。救い主は贖罪によって選択の自由を守護し、人が信仰によって行動し、学ぶのを可能にされました。ルシフェルは御父の計画に逆らい、選択の自由を奪い、わたしたちを受動的にしか学ばない者にしようとしています。

天の御父は、エデンの園でアダムとエバに言われました。「あなたはどこにいるのか」(創世記3:9)。御父はアダムがどこにいるのか御存じにもかかわらず、そう尋ねられました。なぜでしょう。愛と知恵に満ちた御父は、受動的ではなく、主体的に学ばせようとしたのです。親がよく犯す過ちですが、不従順な子供に親が一方的に説教をしても効果はありません。御父は、アダムが主体的に行動し、選択の自由を使って学ぶように助けられたのです。

ニーファイは、父親のリーハイが命の木の示現で見た象徴の意味を知りたいと願っていました。主の御霊は、ニーファイにこう質問されました。「見よ、あなたは何を望んでいるのか。」(1ニーファイ11:2) 御霊は、ニーファイの望みを知りながら、なぜ

そう聞かれたのでしょうか。聖霊は、やはりニーファイが主体的に学べるように助けておられたのです。(後で第1ニーファイ11章から14章を調べてください。御霊はニーファイが主体的に学べるように、何度も質問をして、何度も「見なさい」と言っておられます。)

わたしたちは学習者として、御言葉を主体的に行う者とならなくてはなりません。受動的に聞くだけの者となつてはなりません。わたしたちは、信仰によって主体的に学んでいるのでしょうか。それとも教えられるのを待っているだけでしょうか。生徒たちは主体的に、信仰によって学んでいるのでしょうか。それとも教えられるのを待っているだけでしょうか。わたしたちは、生徒たちが信仰によって学べるよう励まし、助けているのでしょうか。わたしたち、そして生徒たちは、熱心に求め、捜し、たたいているのでしょうか(3ニーファイ14:7参照)。

選択の自由を正しく使っている人、原則に従っている人は、聖霊に心を開いているので、聖霊から教えと、証と、確認を受けやすい状態にあります。信仰によって学ぶには、受動的に受けるだけでなく、霊的、知的、肉体的な努力が必要です。信仰に基づいて、そのように努力するならば、天の御父とその御子イエス・キリストに、聖霊から教えを受けて学びたいという意欲を示すことができるのです。信仰によって学ぶとは、選択の自由を使い、まだ見ぬ真実への確信に基づいて努力し、唯一真の教師である主の御霊から、目に見えない真実への確認を受けることなのです。

宣教師は、求道者が信仰によって学べるよう助けます。モルモン書を読んで祈る、教会に出席する、戒めを守るなど、求道者が霊的な決意をして、決意を守るには、信仰を働かせ、主体的に行動する必要があります。宣教師の基本的な務めは、求道者が決意をして、決意を守れるように助けることです。教え、勧め、説明することは大切ですが、それだけでは、回復された福音が真実であるという証を得させることはできません。求道者が信仰に基づいて行動し、心の扉を開くまでは、聖霊はその心に確認をお与えになれないのです。宣教師は、御霊の力によって教えなければなりません。しかし同時に、求道者が信仰によって学べるように助けなければならないのです。

わたしが今話しているこの「学ぶ」という事柄は、単に理解し、記憶するということとは次元が違います。わたしが話しているこの「学ぶ」という経験をした人は、生まれながらの人を捨て(モーサヤ3:19参照)、心に変化が生じ(モーサヤ5:2参照)、主に

帰依し、二度と道を踏み外さなくなります(アルマ23:6参照)。信仰によって学ぶには、心と進んで行う精神が必要です(教義と聖約64:34参照)。信仰によって学ぶという経験をするには、聖霊によって心に伝えられた神の御言葉の力を、心に入れなければなりません。講義や論証や演習を行ったとしても、信仰によってしか学べない事柄を、教師から生徒に伝えることはできません。生徒が知識を得るためには、生徒自身が信仰を働かせ、主体的に学ぶしかありません。

ジョセフ・スミスは、信仰によって学ぶ方法を理解していました。新約聖書のヤコブ書から祈りと信仰に関する聖句を読んだことは、ジョセフ・スミスの生涯の中で有名なエピソードの一つです(ヤコブの手紙1:5-6参照)。この聖句から靈感を受けたジョセフは、近くの森に入り、霊的な知識を求めて祈りました。森に入る前に、ジョセフがそのことをずっと思い巡らしていたことに着目してください。自分自身を備えてから「信仰をもって願い求め」たのです(ヤコブの手紙1:6)。

「この言葉の争いと見解の騒動の渦のただ中であって、わたしはしばしば心に問うた。『何をしなければならないのだろうか。これらすべての教派のうちのどれが正しいのだろうか。それとも、ことごとく間違っているのだろうか。もし彼らのうちのどれかが正しいとすれば、それはどれで、どうすればそれが分かるのだろうか。』

わたしが主にお伺いしようとした目的は、自分が加わるべき教派を知るために、すべての教派のうちのどれが正しいかを知ることであった。そこで、わたしは我に返って物を言えるようになるやいなや、わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか……; また自分はどれに加わるべきかを伺った。」(ジョセフ・スミス-歴史1:10, 18)

ジョセフは、自分が知るべきことだけでなく、自分が行うべきことも聞きました。最初の質問は、何をすべきかという、「行動」に関するものでした。単にどの教会が正しいかということではなく、どの教会に加わるべきかと尋ねたのです。行動する決意をし、森へ行き、信仰によって学んだのです。

信仰によって学び、霊的な真理を生活に応用するのは、最終的には個人の責任です。今日においても、将来においても、信仰によって学ぶ責任はますます重要になっていきます。教授法、テーマ、レッスンの形式、そして教師自身は、何をいつどのように学ぶかをサポートしているだけであり、決定はしていないのです。

信仰によって学ぶことは、現世における重大な試練の一つです。わたしが説明しようとしている学習のプロセスと結果を、預言者ジョセフ・スミスが見事に要約しています。あるときジョセフは十二使徒から質問され、こう答えました。「真理と知恵を得る最善の方法は、書物ではなく、祈りによって神のもとへ行き、神から学ぶことです。」(*History of the Church*, 第4巻, 425)

別の折に預言者ジョセフはこう述べています。「人の経験談や、人が受けた啓示を読んでも、自分の状態や、自分と神との真の関係について、完全に理解することはできません。」(*History of the Church*, 第6巻, 50)

教師への意義

信仰によって学ぶことに関するこれらの真理は、教師にとっても大きな意義があります。3つの意義について考えてみましょう。

一つ目の意義——聖霊は唯一まことの教師であられる。

聖霊は神会の第三の御方であり、唯一まことの教師であり、あらゆる真理の証人であられます。ジェームズ・E・タルメージ長老はこう述べています。

「聖霊が人類の間で教えと恵みを施したもうときの職務は聖典に載っている。聖霊は御父から遣わされる教師であって、聖霊の教えを受けるにふさわしい者たちに、身も霊も進歩発達するのに必要なすべてのことを教えたもう。」(*The Articles of Faith*, 第12版〔1924年〕, 162)

正しく求めるならば、聖霊は学ぶ人の心に、教師として入って来られることを常に覚えておきましょう。ですからわたしたちには、慰め主である聖霊によって教える責任があるのです。なぜなら御霊によって教えられなければ、だれもそれを信仰によって学ぶことができないからです(教義と聖約50:14参照)。この点で教師は、光ファイバーケーブルの素材である薄いガラス繊維のようなものです。このケーブルは、はるかかなたに光信号を伝えるものです。光を効果的に伝えるには、このガラス繊維は純粋なものでなければなりません。教師も同じように、主の御霊によって働くふさわしさを維持しなければなりません。

しかしあくまでも教師は光を伝達するケーブルであり、光そ

のものではないことを忘れてはなりません。「語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の霊である。」(マタイ10:20)語る者は、教師ではないのです。教師が自分のメッセージ、教授法、態度によって、意識的に生徒の関心を自分自身に引きつけようとするなら、それは一種の偽善売教であり、聖霊からの教えの効果を妨げることになります。「真理の御霊によってそれを宣べ伝えるか、それとも何かほかの方法によって宣べ伝えるか。もしもそれが何かほかの方法によらずれば、それは神から出てはいない。」(教義と聖約50:17-18)

二つ目の意義——信仰によって学ぶよう励ますときに、教師として最大の効果を上げることができる。

「魚を与える人は1回分の食物を与えるが、魚の釣り方を教える人は一生分の食物を与えることができる」ということわざがあります。福音の教師の仕事は、魚を与えることではなく、一人一人に「魚の釣り方」を学ばせて、霊的に自立させることです。この目的を成し遂げるには、正しい原則に従って学べるように、つまり「行う」ことによって学べるように助けることが大切です。「神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、この教が神からのものかどうかわかるであろう。」(ヨハネ7:17参照)

1875年に、教会の若い男性を組織する召しを受けたジュニアス・F・ウェルズは、ブリガム・ヤング大管長から次のような助言を受けました。

集会では出席者名簿の最初から始めて、時間の許すかぎりできるだけ多くの人に証を述べてもらってください。証できなかった人には次の集会でその機会を与え、全員が立って、発言できるようにしてください。述べるほどの証がないと言う人がたくさんいるかもしれませんが、立ち上がらせてください。すると、彼らは以前に考えたことのない多くの真理について、語る言葉を主から与えられることに気づくでしょう。ひざまずいて証を祈り求めているときよりも、立ち上がって証を述べようとするときの方が、証が得られるのです。(ジュニアス・F・ウェルズ “Historic Sketch,” *Improvement Era*, 1925年6月号, 715)

ボイド・K・パッカー長老は、^{こんにち}今日同じような勧告を与えています。

「ぜひこの原則を知ってください。証は、『証している』ときに『得られる』のです。霊的な知識を求めて努力している人は、あるとき、いわゆる『信仰の高まり』を経験します。そのとき人は闇のそばまでやって来ていて、思い切って闇の中に入ってみると、

一、二歩足先に道を照らす光があることに気づくのです。聖典にあるように、『人の魂は』まことに『主のともしび』なのです。(箴言20:27)

書物や人の話から証を得るのは一つの方法であって、初期の段階では必要なことです。しかし、『あなたが今証したことは真実です』という確認を御霊から受けることとは、次元が違います。証は、証するときに得られることを知っていますか。だれかに伝えるときに、さらに大きな証が与えられるのです。』(Ensign, 1983年1月号, 54-55)

わたしの人生に大きな影響を与えてくれた教師たちには、共通する特徴があります。彼らは皆、信仰によって学ぶよう助けてくれました。難しい質問に対して、手軽な答えはくれませんでした。実際、何の答えもくれませんでした。その代わりに、自分で答えを見つけられるように、道を示してくれました。そのような助言にいつも感謝していたわけではありませんが、やがて、「人からもらった答えは記憶に長くとどまらない」ということが経験を通して分かってきました。しかし、信仰を働かせて見いだした答えは生涯残ります。人生で最も大切な知識は、教えられたものではなく、自分でつかみ取ったものなのです。

霊的な知識を祝福され、その知識が真実であるという確認を心に受けた人が、その知識をそのままだれかに与えることは不可能なことです。その知識を得るには、信仰によって勤勉に学ぶという代価を支払わなければならないのです。そのような努力をして初めて、頭で理解したことが、心で感じられるようになるのです。そのようにして初めて、だれかの霊的な知識や経験に依存する段階を卒業して、自分でそのような祝福を得られるようになります。そのようにして、将来への霊的な備えができるのです。「研究によって、また信仰によって学問を求め」なければなりません。(教義と聖約88:118)

三つ目の意義——信仰によって学べるように助けるときに、教師は自分の信仰を強められる。

すべてのことを教えてくださる聖霊(ヨハネ14:26参照)は、主体的にキリストへの信仰を働かせる人の学習を助けたいと熱望しておられます。興味深いことに、この神聖な助けが最もよく与えられるのは、家庭で、あるいは教会で、教えているときなのです。パウロがローマ人に述べたように「人を教える人は、自分をも教えている」のです。(ローマ2:21)

教義と聖約には、熱心に教えるなら、天の恵みと教えが与えられると記されています。

「また、**あなたがた**に一つの戒めを与える。あなたがたは互いに王国の教義を教え合わなければならない。

熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みが**あなたがた**に伴うであろう。それは、理論において、原則において、教義において、福音の律法において、**あなたがた**が理解する必要のある神の王国に関するすべてのことにおいて、**あなたがた**がさらに完全に教えられるためである。」(教義と聖約88:77-78, 強調付加)

これらの祝福が、教師のために用意されていることを考えてみてください。「熱心に教えなさい。そうすれば、わたしの恵みが**あなたがた**に伴うであろう。」それは、あなたがた教師が、さらに完全に教えられるためです。

教義と聖約の同じ章の122節にもこの原則が説明されています。

「あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして、**全員**が同時に語ることなく、一時に一人を語らせて、**すべての者が**彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは、**すべての者が**語って、**すべての者が**互いに教化し合うように、また**すべての人が**等しい特権を持てるようにするためである。」(教義と聖約88:122, 強調付加)

皆が堂々と秩序正しく語り、耳を傾けるときに、皆が教化されます。

個人やグループが救い主への信仰を働かせるとき、主の御霊による教えと力が与えられるのです。

信仰によって学ぶ——最近経験した例

昨年8月、恵まれて、大管長会から2005年の末までにモルモン書を読むというチャレンジが出されました。ヒンクレー大管長はこの単純な読書プログラムを忠実に実行する人は、生活や家庭の中に、主の御霊がさらに豊かに注がれ、主の戒めに従って歩もうとする決意が強められ、神の御子が確かに生きておられることが、さらにはっきりと分かるようになると約束してくださいました。(「力強い、真実の証」『リアホナ』2005年8月号, 6参照)

このチャレンジは、信仰によって学ぶことの典型的な例です。第1に、読むように命じられた人はだれもいません。その代わりに、選択の自由を使って、正しい原則に従うようにと勧められました。大管長は、受動的ではなく、主体的に行うように励ましてくれました。チャレンジを受け入れるかどうか、成し遂げるかどうかを決めるのは、各個人に任されました。

第2に、大管長は主体的に読むように勧めることによって、一人一人に、信仰によって学ぶよう励ましました。学び方を示すための新しいガイドは配られませんでした。新しいレッスンやクラス、プログラムなどは作られませんでした。皆が自分のモルモン書を持っており、大管長会のチャレンジにこたえ、救い主への信仰を働かせることにより、心の扉を開きました。そのようにして、唯一まことの教師である聖霊から教えを受ける備えをしたのです。

最近、大勢の会員からモルモン書を読んで経験したことについての証を聞き、わたしは大きな感動を覚えています。彼らは、今必要とする、大切に、霊的な教訓を学び、生活が改善され、約束された祝福を受けています。モルモン書、主体的な心、そして聖霊——単純明快です。わたしたち中央幹部は、大管長の勧めにこたえることによって、また信仰によって学ぶ多くの会員

を見ることによって、わたしたち自身の信仰が強められています。

前に述べたように、信仰によって学ぶ責任は一人一人にあります。この世界がますます混乱し、騒然としている現在、この義務は以前にも増して重大になってきています。この末日にあって、個人が霊的に成長し、教会が発展するには、信仰によって学ぶしかありません。一人一人がまことに義に飢え渴き、聖霊に満たされ(3ニーファイ12:6参照)、信仰によって学ぶようにと願っています。

イエスがキリストであり、永遠の御父の独り子であられることを証します。イエスは救い主、贖い主であられます。キリストについて知り、主の御言葉に耳を傾け、主の御霊の柔和な道を歩むとき(教義と聖約19:23参照)、霊的な力と守りと平安が得られることを証します。

主の僕として、皆さん一人一人にこの祝福が注がれるよう切に願っています。信仰によって学ぶ望みと力が増し加えられ、信仰によって学ぶよう人を助ける力が高められるようにと、主に願っています。その祝福は、皆さん一人一人と、家族にとって、また皆さんが教える人々にとって、霊的な知識の大いなる宝となるのです。イエス・キリストの聖なる御名により、アーメン。